事例No.	2867
公表年度	R5
団体の属性	都道府県
団体名	岡山県

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

高等学校魅力化推進事業（リージョナルモデル）

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第5回）

都道府県名	岡山県
事　業　名	高等学校魅力化推進事業（リージョナルモデル） ※高等学校魅力化推進事業は、おかやま創生高校パワーアップ事業が前身事業となっている。

概　要

○岡山県立高等学校教育体制整備実施計画（H31.2 策定）に基づき、県立高校の魅力化を図る。
（1 学年 3 学級規模の学校（指定校）が対象）

○指定校は、学校及び地元自治体、企業、大学、NPO 法人等からなる地域連携組織を置き、教育内容の質の確保・向上に向けた地域との連携の在り方等を研究し、高校の魅力化を推進する。

創設経緯等

○岡山県内の高校は以前から「地域学」を取り入れているが、徐々に高校の規模縮小が進む中で、更に地域と連携しながら双方の魅力づくりを推進しなければならないという状況下であった。

（本事業の前身）
「おかやま創生高校パワーアップ事業」（平成 28 年度～平成 30 年度）
　事業は、おかやま創生高校パワーアップ事業をブラッシュアップした事業で、より学校と自治体を含む地域、企業等との繋がりを濃くしたもの。学校側も地域に出る機会が増やし、ボランティアとしてではなく、地域との繋がりを意識することができた。また、今まで以上に地域に対する帰属意識が高まった。
　岡山大学への委託を行わず、各学校にコーディネーターを配置し、自走の形となっている。3 年間の事業で、令和３年度に終了。

○コーディネーターは人件費 100 万、事業費 50 万。財源は各部局予算とタイアップする形で確保。目玉はコーディネーターの配置であり、個人ではなく団体に委託の方法が複数立出来るのでよい。

事業の特徴

○各学校にコーディネーターを配置することが事業の目玉、学校と地域を結ぶコーディネーターに係る経費への補助は他にはなく、その点で県として支援してきたところはひとつの特徴。

○今では、コーディネーターを担いたいという高校生も出てきていることや、地元への就職希望者が増えたので、地域人材の育成という点で成果が上がっていると実感。

○地域連携組織を作ることで、コミニュティスクール化を図った。段階的に進めており、次の春で導入清みとなる見込み。地域人材として、地元企業へ就職も増加。企業が高卒を採用意欲を示しており、今後、高校と連携していくことで課題解決していく。

○事業の中で、工業系、電気系の生徒が専門のスキルによって地域課題の解決に取り組む授業がある。地域への愛着の醸成にもつながり、結果として、これまで定員割れしていた学校が定員を回復する等の効果が出ている。

○地域で貢献活動を行ったり、課題解決に向けた様々な取組み等を行うことで、地域の大人か

らの評価を得ることにより、自己肯定感、自己有用感が高まり、活動意欲も向上する。

○（**成果**）
・県立高校の魅力化の促進、地域人材の育成を図る
（**状況を確認する方法**）
・事業実施校への地元中学校卒業者の進学割合
・入学者数
・高校が所在する市町中卒者の本校への進学割合
・指定校が独自に定めた指標

○地域が関わることにより、学校の新たな魅力が生まれ、地域に少しでも活力が出てくること。また学校外の大人が生徒に関わることにより、校内だけでは見られない生徒の成長が見られる。

市区町村との連携等

○地域連携組織は、地域よって対応は様々であり、首長が参加している場合もあれば担当課のみの場合もある。市町に１校しかないような自治体の方が、力を入れている積極的な関わりがある印象がある。

○高校生には“探究”が求められ、課題を見つけ、解決するプロセスが大事であるが、学校だけの関わりだと限られた範囲でしかできない。市町村は、課題解決学習に協力してほしい。

○たとえ地域課題が小さくても、そこに含まれる課題は、日本の課題でもあるため、高校生の時に知ることはとても重要。市町村には、地域課題を積極的に高校生に提示してほしい。

○矢掛高校、和気閑谷高校、邑久高校については、地元市町村から、学習に関して財政的な支援が行われている。

受講費等

○受講費や参加費などの対価の徴収はなし。

参加者属性等

○基本的に学校単位で参加するもの。どの学年が参加するか、どの学科にするかは学校の判断による。

実施方式等

○都道府県の直営。各学校に「地域協働活動コーディネーター」を配置することにしたため。

受講生の反応等

○県の方では特段把握はしていない。

各学校より提出された事業報告書において一部感想等の報告あり。

※笠岡商業高校における「地域と連携した「高校の魅力化」フォーラムにおける生徒からの取組み感想（抜粋）

・発表を聞いて私たちのような高校生が情報発信していくことの大切さを改めて思った。
・観光ガイドになりきって発表していて、北木島に行ってみたいと思いました。
・ガイド形式で発表が面白かったです。実際にツアーに行った気分になりました。
・質問の回答も素晴らしかったです。
・笑顔で発表していて良かったです。
・北木島の魅力を伝えたいという思いがよく感じられました。
・ガイド（生徒）の皆さんの声が明るくて、楽しく北木島のことが学べました。
・笠 SHOP の活動はすごい、楽しそうだし、おもしろそう。

○卒業生をリストアップし、今後後輩たちとオンラインで繋がってもらえるかを確認し、了解を得た卒業生について、在学生に対しての助言や大学での生活などの情報を定期的に掲載している学校が一部あると聞いている。

意義等

○高校卒業までに学校が立地する地域について知り、地域の大人と協働する（関わる）ことにより、地域への愛着が湧くとともに、地域に貢献したい。と思うようになる。そうなれば、一旦進学等で県外へ出ても再び戻ってくる、あるいは地域と関わる率が高くなる。

今後の展望

○本事業は令和３年度で終了。

令和４年度は、全国で高校魅力化のサポートしている企業にも入ってもらい、地域の入れてもらったり、視察を通じて、人の取り合いではなく、人に選ばれるまちになるために何をしなければならないのかの研究を始めたところ。

事業としては、4年度、5年度の 2 年間は、この企業に入ってもらい取り組むが、2 年だけでは成果が出てくるものではないと思っている。きっかけづくりである。

その他（募集等）

○１学年３学級規模の高校を対象に県が指定。県内で一番小さい規模の学校が１学年３学級であることからこのようにしたもの。

○現状は、学校間で、生徒を取り合っている状態。今後はどうやって外部の学生を呼んでくるかが必要との認識の下、検討を進めている。選ばれる学校にするにはどうすればよいか、研究を始めている。

○コーディネーターに関して、3 年間終了後のコーディネーターの雇用に関して自治体ごとで工夫している。再雇用、金額の上乗せ等がある。協力隊の活用なども通じて、今後も各自治体で継続して頂きたい。

○（事業目的に掲げた）新学科は設立できなかったが、普通科高校において新コースを設立した。また、工業高校において、これまで電気系と機械系で完全に分かれて授業していたものを、一緒に地域課題の解決に取り組む授業を設けた。更に、クラブ活動として地域課題の解決に取り組むラボを設立したケースもある。